

## 第9 グループ【福祉・保健分野】

---



みなとタウンフォーラム・第9グループ  
福祉・保健分野

令和2(2020)年3月23日

みなとタウンフォーラム第9グループ [メンバー]

飯塚 弘幸      小黒 敏朗      幸田 千栄子  
佐藤 恭彦      八木 嘉也

※メンバーは五十音順



## 提言にあたって

### 第9グループ【福祉・保健分野】

私たち第9グループは、福祉・保健分野について、メンバーの興味・関心に基づき、「高齢者支援の充実」、「生活困窮者の支援」、「健康の増進」の3つのテーマに分け、全8回にわたり、グループ会議で議論を重ねてきました。

私たちは、前述した3つのテーマについて、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活を送ることのできるよう、地域包括ケアシステムの構築に向けた取組や、生活困窮者の自立支援に向けた取組、健診（検診）の受診率向上や受動喫煙防止対策に関する取組など、港区の現状と課題を確認しました。

一方、区民目線を持つメンバーからは、高齢者の働く場所や活躍できる場所が不十分であることや、生活困窮に対するネガティブなイメージがあること、健診等を受けやすい環境づくりとターゲットの明確化が必要であることなど、それぞれのテーマにおいて日頃感じている様々な課題を共有しました。

港区の過去10年における年齢3区分別人

口推移を調べると、年少人口（0～14歳）、生産年齢人口（15～64歳）及び老年人口（65歳以上）のいずれも増加しており、将来人口推計をみても令和8（2026）年度には30万人を突破することが推計されているなど、幅広い世代の区民に対して福祉・保健分野のニーズはますます高まると予想されます。

私たちは、次期港区基本計画の計画最終年度末（令和8（2026）年度末）に向けて、高齢者が地域の中で元気に活躍し、生活困窮に対する偏見がなく、誰もが健康づくりに取り組める環境がより一層整っているまちを実現したい、との思いで意見を交わし、これまでの議論を踏まえ、第9グループの提言として取りまとめました。

この提言が、令和3（2021）年度からの次期港区基本計画に反映され、高齢者や生活困窮者が安心して生活を送ることができ、区民誰もが健康に暮らし続けることのできるまちになることを期待します。

# 提言の体系

テーマ	提言内容（具体的な事業）
高齢者支援の充実	<p>各町会等への出張教室・出前講座</p> <p>高齢者福祉施設の利便性の向上</p> <p>参加者層の増加を狙った分野横断的なイベントの開催</p> <p>公衆浴場の設置・活用</p> <p>「つどえるカフェ『みかんの輪』」の導入</p> <p>飲食店等へ認知症に理解のある人材の配置</p> <p>登録制による行政サービスの情報配信</p>
生活困窮者の支援	<p>生活困窮者の支援先等に関するPR動画の製作・配信</p> <p>生活困窮者と求人募集中の事業者とのマッチングアプリの製作</p> <p>介護が必要な生活困窮者も入居できる特養多床室の設置</p> <p>自立支援に関する相談員を区民が集まりやすい身近な場所へ派遣</p> <p>悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携した相談体制の構築</p> <p>生活困窮のことも含めた何でも相談できる総合相談窓口の設置</p>
健康の増進	<p>映像配信を活用した区民の健康づくりに資する取組の周知・啓発</p> <p>区民の医療関連情報を集約し活用できるシステムづくり</p> <p>健診や予防接種の機会をより多く創出するための環境づくり</p> <p>多くの区民が参加するイベントと連携して健康づくりの機会の提供</p> <p>子どもから高齢者までがいきいきと元気に暮らせるように、誰もが一緒に集う世代間交流の場の設置</p>

第1グループ  
【街づくり分野】

第2グループ  
【防災・生活安全分野】

第3グループ  
【環境リサイクル分野】

第4グループ  
【地域コミュニティ分野】

第5グループ  
【国際化・文化分野】

第6グループ  
【産業・観光分野】

第7グループ  
【子育て・教育分野】

第8グループ  
【生涯学習スポーツ分野】

第9グループ  
【福祉・保健分野】

## テーマ① 高齢者支援の充実

### 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 高齢者が、地域の中で、老若男女問わず様々な人との交流を通じて元気に活躍し、不安や悩みを気軽に相談できる環境が整っている。

### 実現に向けた課題

- 高齢者が働く場所や活躍できる場所が不十分
- 要介護者を少なくする取組や自宅で看取ることのできる支援が必要
- 若い年代のボランティアが少ない。
- 相談窓口や講座、活動の周知を図る必要がある。

### 取組の方向性

- 仕事やボランティア活動の場づくりなどを推進することにより、高齢者と地域との接点をつくることで、人と人との交流を創出する。
- 高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きがいを持って暮らすことができるように、高齢者支援に関心のある人材や団体と連携し、関連する取組の周知・PRを図る。

## 具体的な事業

### ・各町会等への出張教室・出前講座

各町会等へ健康づくりの専門家を派遣して、教室や講座を開催する機会を設ける。

### ・高齢者福祉施設の利便性の向上

高齢者福祉施設をより利用しやすいものとするために、施設の利用方法等の改善や周知など、区民の利便性を高める方法を検討する。また、居住している近隣地区の高齢者施設や公衆浴場などに行きやすくするように、ちいばすルートを再検討する。

### ・参加者層の増加を狙った分野横断的なイベントの開催

高齢者のみを対象とするのではなく、親子の参加も見込めるように、防災訓練や健康教室と運動会を組み合わせるなど、分野横断的なイベントを開催する。

### ・公衆浴場の設置・活用

高齢者の交流の場となるように、公衆浴場の設置及び活用と利用しやすい環境づくりを推進する。

### ・「つどえるカフェ『みかんの輪』」の導入

協力企業またはビル管理会社などを拠点として、オレンジリング保持者をスタッフに配置、介護施設に配車・送迎協力を求め、拠点となる場所で就労やボランティアを行えるような仕組みを一例とする、高齢者と住民、民間企業などのつながりをつくる仕組みを導入する。

### ・飲食店等へ認知症に理解のある人材の配置

認知症に理解のある環境づくりを推進するため、飲食店等へ認知症に理解のある人材を配置する。

### ・登録制による行政サービスの情報配信

区民が高齢者関連や子育て関連の情報を希望して登録すると、該当者に案内を届けるような仕組みを導入する。

## 参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- ・高齢者福祉関連施設を整備する際に、計画段階から区民が参画する。
- ・「みんなとオレンジカフェ」のようにボランティアとして協力する。
- ・高齢者が利用できる区の行政サービスについて、町会やコミュニティ内で情報共有する。

## テーマ② 生活困窮者の支援

### 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 生活困窮者に対して偏見がなくみんながともに暮らせるまち
- 生活困窮者が自立して生活できるまち

### 実現に向けた課題

- 生活困窮に対するネガティブなイメージがある。
- 生活困窮者の自立支援に向けたきっかけづくり、または、職場環境が不十分
- 相談窓口気軽にいきにくい。
- 日常生活の買い物がしにくい。
- ひきこもり状態の人や、老々介護に直面している人、一人暮らしの認知症の人などは生活困窮に至る可能性が考えられるため、予防策となる支援が必要である。

### 取組の方向性

- 生活困窮者が「困った」と言える環境づくりと対応
- 気軽に集まれて情報交換できるような場の設置
- 買い物弱者のための、交通手段を含めた利便性の確保
- 老々介護の人等が相談しやすい窓口の設置

## 具体的な事業

### ・生活困窮者の支援先等に関するPR動画の製作・配信

インターネットによる動画共有サービスで配信可能なPR動画を製作するなど、生活困窮者の支援先等に関する情報を配信する。

### ・生活困窮者と求人募集中の事業者とのマッチングアプリの製作

生活困窮者が就労に結びつきやすくなる環境づくりを図るため、求人募集中の事業者とのマッチングアプリを製作する。

### ・介護が必要な生活困窮者も入居できる特養多床室の設置

介護が必要な生活困窮者がより入居しやすい特養多床室を設置する。

### ・自立支援に関する相談員を区民が集まりやすい身近な場所へ派遣

自立支援に関する相談員が、区民が集まりやすい身近な場所に出向いて、まだ支援につながっていない人を適切な支援に結び付ける。

### ・悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携した相談体制の構築

悩みを聞いてもらえるイメージのある場所や施設と区が連携し、相談体制の充実を図る。

### ・生活困窮のことも含めた何でも相談できる窓口の設置

自らが生活困窮状態にあることを知られないように、生活困窮専用の窓口ではなく、何でも相談できる窓口を設置する。

## 参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- ・生活困窮者の支援先等に関するPR活動に協力・参加する。
- ・誰もが立ち寄りやすいフリーマーケット、茶話会等の開催に協力する。
- ・経済的支援の必要な人のための住居を建設する際に区民も参画する。
- ・何でも相談できるように、日ごろから身近な人との関係づくりを築いておく。

## テーマ③ 健康の増進

### 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

- 健診機会の充実や区民の医療関連情報の集約などを図ることで、誰もが健康づくりに取り組める環境がより一層整っているまち

### 実現に向けた課題

- 働き盛り世代の人が病気になった時や障害を抱えた時、がん治療後など、療養中・療養後の支援が必要
- 健診やがん検診、予防接種などの受けやすい環境づくりと、より受けてもらいたいターゲット（専業主婦や子ども）の明確化とその取組が必要
- 健診やがん検診、歩きたばこ禁止など、健康の増進に関する既存の取組における周知啓発が必要
- 仲間とともに健康づくりができる活動機会が少ない。
- がん患者や障害を抱えた人に対する理解不足、死生観を見直す必要もある。
- 健康関連施設における人材の不足、また質にも課題がみられる。

### 取組の方向性

- 療養中・療養後の支援
- 健診やがん検診、予防接種などを受けやすい環境づくりとターゲットの明確化
- 健康の増進に関する既存の取組の充実及び周知
- 人生の最期まで自分らしく健康に過ごすための支援

## 具体的な事業

### ・映像配信を活用した区民の健康づくりに資する取組の周知・啓発

インターネットによる動画共有サービスで配信可能な動画を製作するなど、健診や感染症・介護予防についての周知・啓発を図る。

### ・区民の医療関連情報を集約し活用できるシステムづくり

区民の医療関連情報を集約し、健診や予防接種、かかりつけ医に受診の際に活用したりするシステムづくりを図る。

### ・健診や予防接種の機会をより多く創出するための環境づくり

地域に健診の出張サービスを提供したり、幼稚園や小学校、中学校などでの予防接種の集団実施を行う取り組みを推進する。

### ・多くの区民が参加するイベントと連携して健康づくりの機会の提供

魅力あるイベントにおいて、健康相談コーナーや血圧測定コーナーなどを設置し、健康づくりの機会を提供する。

### ・誰もが一緒に集う世代間交流の場の設置

子どもから高齢者までがいきいきと元気に暮らせるように、世代間交流の場の常設を検討する。

## 参画と協働の推進(区民等の事業への携わり方)

- ・一つひとつの事業を区が企画・立案する時に、子どもから高齢者まで幅広い年代の区民が参画する。また、若い人が中心に企画立案・実施を行う。
- ・健康づくり関連の機会・イベントの時に、ボランティアとして協力する。

# 開催経過

第9グループ【福祉・保健分野】

回数	開催日時	内容
<b>第1回</b>	令和元年9月20日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・事務局紹介</li><li>・グループ会議の進め方について</li><li>・分野における現状と課題について</li><li>・リーダー、サブリーダーの選出</li><li>・検討テーマの選定</li></ul>
<b>第2回</b>	令和元年10月9日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第1回グループ会議の振り返り</li><li>・検討テーマ「高齢者支援の充実」について</li></ul>
<b>第3回</b>	令和元年10月23日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第2回グループ会議の振り返り</li><li>・検討テーマ「高齢者支援の充実」について</li></ul>
<b>第4回</b>	令和元年11月6日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第3回グループ会議の振り返り</li><li>・検討テーマ「生活困窮者の支援」について</li></ul>
<b>第5回</b>	令和元年11月22日(金) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第4回グループ会議の振り返り</li><li>・検討テーマ「生活困窮者の支援」について</li></ul>
<b>第6回</b>	令和元年12月9日(月) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第5回グループ会議の振り返り</li><li>・検討テーマ「健康の増進」について</li></ul>
<b>第7回</b>	令和元年12月25日(水) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第6回グループ会議の振り返り</li><li>・検討テーマ「健康の増進」について</li></ul>
<b>第8回</b>	令和2年1月16日(木) 18:30~20:30	<ul style="list-style-type: none"><li>・第7回グループ会議の振り返り</li><li>・提言内容の確認について</li></ul>

# 第9グループ<sup>○</sup> 福祉・保健分野

2020年3月23日

リーダー：飯塚 弘幸

小黒 敏朗

サブリーダー：幸田 千栄子

佐藤 恭彦

八木 嘉也



## 目次

1. 活動内容
2. 提言の方向性（令和8年にこうなっていたい）
3. 具体的な提言
  - （1）高齢者支援の充実
  - （2）生活困窮者の支援
  - （3）健康の増進
4. まとめ

# 1. 活動内容

- (1) 全8回
- (2) 時間：2時間
- (3) 出席率92.5%

各回に、区の担当部局からご出席いただき、現状をご説明いただきました。

回数	開催日時	主な議題
第1回	令和元年 9月20日（金）	○事務局紹介○グループ会議の進め方について ○分野における現状と課題について ○リーダー、サブリーダーの選出○検討テーマの選定
第2回	令和元年 10月9日（水）	○第1回グループ会議の振り返り ○検討テーマ「高齢者支援の充実」について
第3回	令和元年 10月23日（水）	○第2回グループ会議の振り返り ○検討テーマ「高齢者支援の充実」について
第4回	令和元年 11月6日（水）	○第3回グループ会議の振り返り ○検討テーマ「生活困窮者の支援」について
第5回	令和元年 11月22日（金）	○第4回グループ会議の振り返り ○検討テーマ「生活困窮者の支援」について
第6回	令和元年 12月9日（月）	○第5回グループ会議の振り返り ○検討テーマ「健康の増進」について
第7回	令和元年 12月25日（水）	○第6回グループ会議の振り返り ○検討テーマ「健康の増進」について
第8回	令和2年 1月16日（木）	○第7回グループ会議の振り返り ○提言内容の確認について

# 2. 提言の方向性（令和8年にこうなっていたい）

- (1) 多様な区民を受け入れ、区分しない
  - …人と人との交流を創出する
  - …場の設定をする
- (2) 区の実践の周知・PR
  - …多様な区民が企画から参画する

総合窓口



### 3. 具体的な提言 (1) 高齢者支援の充実

① 高齢者と地域との接点づくり・・・仕事やボランティア活動の場づくりなどを推進することにより、高齢者と地域との接点をつくり、人と人との交流を創出する。

○ 高齢者福祉施設の利便性の向上・・・ちいバスで乗り換えずに隣の地区の高齢者施設に行ける

○ 参加者層の増加を狙った分野横断的なイベントの開催・・・運動会や防災訓練と健康教室

○ 「つどえるカフェ『みかんの輪』」の導入・・・協力企業やビル管理会社を拠点に

○ 飲食店等へ認知症に理解のある人材の配置・・・認知症の理解促進

○ 各町会等への出張教室・出前講座・・・専門家派遣

○ 公衆浴場の設置・活用・・・高齢者の交流の場



### 3. 具体的な提言 (1) 高齢者支援の充実

② 周知・PR・・・高齢者が住み慣れた地域で自分らしく生きがいを持って暮らすことができるように、高齢者支援に関心のある人材や団体と連携し、関連する取組の周知・PRを図る。

○ 登録制による行政サービスの情報配信



### 3. 具体的な提言 (2) 生活困窮者の支援

#### ① 生活困窮者が「困った」と言える環境づくりと施策。

- 生活困窮者の支援先等に関するPR動画の製作・配信
- 生活困窮者と求人募集中の事業者とのマッチングアプリの製作・・・就労をしやすく
- 悩みを聞いてもらえるイメージのある施設と連携した相談体制の構築
- 介護が必要な生活困窮者も入居できる特養多床室の設置



### 3. 具体的な提言 (2) 生活困窮者の支援

#### ② 気軽に集まれる情報交換の場の設置。

- 自立支援に関する相談員を区民が集まりやすい身近な場所へ派遣・・・まだ支援に結びついていない人に適切な支援を



#### ③ 買い物弱者のための利便性の確保 (交通手段を含め)。

#### ④ 相談しやすい窓口の設置 (老々介護の人等)。

- 生活困窮のことを含めた何でも相談できる窓口の設置・・・生活困窮状態であることがわからないように

総合窓口



### 3. 具体的な提言 (3) 健康の増進

①療養中・療養後の支援。

②健診やがん検診、予防接種などを受けやすい環境づくりとターゲットの明確化。

○健診や予防接種の機会をより多く創出するための環境づくり  
…出張サービスを提供したり、幼稚園や小学校、中学校などでの予防接種の集団実施  
(現状は、親が休暇を取って予防接種を受けさせている)

○多くの区民が参加するイベントと連携して健康づくりの機会の提供  
…健康相談コーナーや血圧測定コーナーなどを設置し、健康づくりの機会を提供



### 3. 具体的な提言 (3) 健康の増進

③健康の増進に関する既存の取組の充実及び周知。

○映像配信を活用した区民の健康づくりに資する取組の周知・啓発…健診や感染症・介護予防についての周知・啓発を図る

○区民の医療関連情報を集約し活用できるシステムづくり  
…だれが健診を受けたか一括管理できていない。健診や予防接種、かかりつけ医に受診の際に活用

④人生の最期まで自分らしく健康に過ごすための支援。

○誰もが一緒に集う世代間交流の場の設置  
…世代間交流の場の常設を検討する。



## 4. 区民の参画とまとめ

### ① 区民の参画

- 一つひとつの事業を区が企画・立案する時に、子どもから高齢者まで幅広い年代の区民が参画する。また、若い人が中心に企画立案・実施を行う。
- 健康づくり関連の機会・イベントの時に、ボランティアとして協力する。

### ② まとめ

- 年齢や障害に関わらず、港区で生活する誰もが  
不安なく暮らす幸せを実現する

ふ あんなく  
く らす  
し あわせ

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年9月20日（金）18時30分～20時40分

会場：港区役所9階 912会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係職員9名（保健福祉課長、福祉施設整備担当課長、高齢者支援課長、介護保険課長、障害者福祉課長、生活福祉調整課長、生活衛生課長、保健予防課長事務取扱、健康推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 リーダー、サブリーダーの選出
- 5 検討テーマの選定
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
4	グループ会議の進め方について
5	検討希望テーマ集計結果
6	港区基本計画・港区実施計画

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第1回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

#### 1 事務局紹介

事務局が、資料1に基づき事務局メンバーの紹介を行った。

#### 2 グループ会議の進め方について

事務局が、資料2に基づき、検討スケジュールの説明を行った。

事務局が、資料3に基づき、提言の構成についての説明を行った。

事務局が、資料4に基づき、会議の運営手法についての説明を行った。

#### 3 分野における現状と課題について

事務局が、港区基本計画に基づき、第9グループでは、港区基本計画の第3部「はぐくむまち」の政策(21)～(24)を検討範囲とすることについて説明を行った。

事務局が、資料6に基づき福祉・保健に関する政策の説明を行った。

#### (主な意見等)

参加者：高齢者も長く働くよう国から推奨されている中で、いきいきプラザのような場所の夜間利用はできるのか。

事務局：いきいきプラザは平日と土曜日であれば21:30まで開館しており、夜間利用も受け付けている。介護予防総合センターでは、昼間の講座に加えて夜間の講座も用意し、日中働いている人が参加できる機会をつくっている。

参加者：民間のトレーニングジムは、カリキュラムがわかりやすく、利用しやすいと聞いている。ラクっちゃもわかりやすいカリキュラムを導入できると良いのではないのか。

事務局：今後、検討させていただきたい。

参加者：高齢者の一人暮らしの問題も検討していただきたい。

事務局：現在も高齢者の一人暮らしを支援している事業はあるが、引き続き努めていきたい。

参加者：母子家庭に対する家賃補助はあるのか。

事務局：そのような制度は今のところ設けていない。

参加者：特別養護老人ホームなどは民設民営の施設だと予想しているが、区としてはどのように関わろうとしているのか。

事務局：区としては土地を購入し、その土地を民間事業者に売却することで、特別養護老人ホームのような施設の建設につなげるケースが多くなっている。待機者数の増加と、ベッド数が増えることによる介護保険料の増加とを勘案し、施設誘致を検討している。

参加者：誰がどこの特別養護老人ホームに入居しても良いのか。

事務局：港区の場合、区外の人申し込みはできるものの、区内の人が優先になる。現状としては、区内の申込者が多く、区外の人はいれない。特別な事情がなければ、要介護3以上の人がしか入れず、おおよそ1年くらいで入居できる。

参加者：入居できないと在宅介護とか訪問診療とかで対応することになると思うが、現在の取り

組みとしてあるのか。

事務局：どちらもある。特に、地域包括ケアシステムの取り組みの中で、医療従事者との連携を図りたいと考えている。

#### 4 リーダー、サブリーダーの選出について

事務局が、リーダー、サブリーダーの役割についての説明を行った。希望者を募り、立候補によってリーダー、サブリーダーが決定した。

#### 5 検討テーマの選定について

事務局が、資料5に基づいて、参加者から提出いただいた検討テーマについての集計結果を説明した。集計結果としては、多い順に、「2 高齢者支援の充実」、「1 生活困窮者への支援」、「4 健康の増進」、そして「3 障害者支援の充実」となっていた。

参加者の議論により、意見が多かったテーマ1、2、4の3つを選定して議論を進めること、また、議論の順番としては、「2 高齢者支援の充実」、「1 生活困窮者への支援」、「4 健康の増進」、の順で検討を進めることで参加者の合意を得た。

#### (主な意見等)

リーダー：集計結果で回答数が多かったテーマ順に、皆さんの考えを聞かせていただきたい。まずは「高齢者支援の充実」についていかがか。

参加者：先日、視察した施設は充実したものだったが、もう少し身近な場所にあると良いと考えている。わざわざ施設に出向くということではなく、日常の生活圏内で、近隣住民や高齢者が集う場所があることが望ましい。

参加者：いきいきプラザはすでに16施設あり、既存の施設でも十分対応できると思う。ただ、その既存の施設の存在を広く周知することが重要であり、情報発信に力を入れていくと良いのではないか。

参加者：仕事を通じて、ごみ屋敷状態の部屋を掃除する機会があった。家主が認知症となっており、近親者を探すことがとても困難であった。認知症になった高齢者の住まいに関する支援を考えていきたい。

参加者：港区の高齢者支援に向けた取組はある程度充実していると考えているが、在宅介護のための支援はもう少し力を入れていただきたい。また、元気な高齢者を増やす取組、地域に参画できる環境づくりなどについても検討していきたい。

リーダー：それでは続いて「生活困窮者への支援」についていかがか。

参加者：生活困窮者の当事者が気兼ねなく相談できる場所があると良いと考えている。

参加者：地区別の年収データを次回の会議で示していただけませんか。生活困窮者のことを話し合う上で、参考とさせていただきます。

事務局：生活保護世帯のデータであれば地区別に提示できる。

参加者：生活困窮者の予備軍にあたる人に対する施策が重要と思う。

リーダー：アウトリーチの話に関わっており、このあたりはテーマが決まってから時間をとって話し合うことができると考えている。それでは続いて「健康の増進」についていかがか。

参加者：先程も話したように、既存のサービスや施設を有効活動するための周知に力を入れてい

きたい。それから、サークル活動で知り合いや仲間をつくることができ、その人と人とのつながりが健康づくりにも寄与すると思う。

参加者：身近なところで仲間をつくるのが難しいと感じているが、確かに誰かと一緒にあれば、健康増進に向けた取組も楽しくなるのだろうと考えている。

参加者：サークル活動では、参加した人が楽しいと思ってくれて、その人が口コミをしてくれるようになることが良いだろう。

参加者：予防接種の充実に関心がある。子どもと親御さんへの支援を充実していただきたい。

リーダー：ありがとうございます。それでは最後に「障害者支援の充実」についていかがか。私は以前、高度障害の方が企業で働ける仕組みについて話し合ったことがあったため、難病を抱えている方に対する就労支援について検討していきたいと思い、テーマとして希望した。

参加者：障害者に関する内容は幅広くなってきている。身体障害のことだけではなく、精神障害や多動性障害などの課題もあるので、そのあたりのテーマについても興味がある。

リーダー：それでは、テーマの選定を行いたい。希望の多かった「高齢者支援の充実」は決定でよろしいと思うが、他のテーマについてはいかがか。

参加者：テーマは都度決めていけば良いのではないか。

事務局：事前に準備することができるため、可能な限りこの場でテーマを決めさせていただきたい。希望の多い順に、「高齢者支援の充実」、「生活困窮者への支援」、「健康の増進」の3つということで設定しつつ、「障害者支援の充実」は一つのテーマとして設定しないが、それぞれのテーマの中で部分的に取り扱うということはいかがか。

参加者：「障害者支援の充実」は他のテーマと比べて、私たちの関心の低いテーマであるが、最近の社会動向を踏まえると検討しなければならないのかとも考えている。

事務局：確かに昨今、障害者に対する関心の高まりはみられるが、ここではあくまでも集まった参加者の関心の高いテーマに対して提言を出すということがゴールとなる。計画策定にあたっては、今回のタウンフォーラムに加え、アンケート調査や区の取組評価なども総合的に踏まえて検討するので、この場では、皆さんの関心の高いテーマに絞っていただいてかまわない。

リーダー：それでは、事務局から話があった通り、第9グループで取り扱うテーマは「高齢者支援の充実」、「生活困窮者への支援」、「健康の増進」の3つということで決定する。話し合う順番も「高齢者支援の充実」、「生活困窮者への支援」、「健康の増進」の順とする。

事務局：次回の会議で「高齢者支援の充実」をテーマに話し合うことになっているため、関連情報をご紹介したい。港区高齢者保健福祉計画をホームページに掲載しているので参考までにご参照いただきたい。その他、「港区 高齢者」と検索すると、取組が閲覧できるので、時間がある人は検索していただきたい。

## 6 その他

次回以降の開催日程については、資料2に基づき、水曜日とし、次回は10月9日、その次は10月23日とすることを確認した。第4回以降は各月第2週目、第4週目を原則とし、詳細な日程は第2回の会議で決定することとした。

また、欠席者に対しては、本日の会議資料の発送等で情報共有を図りつつ、次回以降は出席して

もらえるように後日連絡する旨を伝えた。

(閉会)

事務局が第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年10月9日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所2階 保健福祉支援部会議室

メンバー：3名（5名欠席）

事務局：対応部門関係職員3名（保健福祉課長、介護保険課長、高齢者支援課長）、企画課グループ  
担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第1回グループ会議の振り返り
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマ「高齢者支援の充実」に関する現状と課題について
- 4 計画最終年度における将来像について
- 5 取組の方向性について
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第1回グループ会議 会議録
3	第1回グループ会議の振り返り
4	提言の取りまとめイメージ
（参考）	「高齢者支援の充実」に関する現状と課題について

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第2回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

リーダーが、資料1に基づき第2回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第1回グループ会議の振り返り

リーダーが、資料2～3に基づき、第1回グループ会議の振り返りを行った。

### 2 グループ会議の進め方について

事務局が、グループ会議の進め方について、付箋に意見を記入して模造紙に貼り付けていく方法で議論を進めていくことを提案し、参加者からの了承を得た。また、資料4に基づき、提言の取りまとめイメージについての説明を行った。

### 3 検討テーマ「高齢者支援の充実」に関する現状と課題について

事務局が、参考資料に基づき、「高齢者支援の充実」に関する現状と課題について説明を行った。

リーダーが、現状と課題について意見交換を促した。

#### (主な意見等)

参加者：高齢者が安心して相談できる場所、及び信頼をよせることのできる人材の育成、相談窓口がない。近隣のごみ屋敷などの細かい相談をしたくてもできない。

参加者：高齢者が働く場所や活躍できる場所がない。

参加者：独居見守りや一人暮らしの支援に課題があるのではないかと。要介護者を少なくする取組や自宅で看取ることのできる支援も必要と考える。

参加者：一人暮らしの高齢者が家を借りることのできない現状を踏まえると、住宅支援が必要なのではないかと。

参加者：若い年代のボランティアがない。

参加者：事業参加を促すために敷居をもう少し低くできないのか。

参加者：相談窓口や講座、活動の周知を図る必要がある。

参加者：既存の行政サービスのPRや、住み慣れた地域での介護福祉の充実化を推進する必要がある。

### 4 計画最終年度における将来像について

リーダーが、計画最終年度における将来像について意見交換を促した。

#### (主な意見等)

参加者：元気な高齢者にとって、働く場所もあり、ボランティアもできている状態。

参加者：人はどのように老いて、死を迎えるのか、各自が理解している状態。また、そのことを理解しているからこそ、いつ・何をすれば良いのか理解して行動できている状態。

参加者：高齢者が生きていて良かったと思える状態。人と人とのつながりを持って、役割を持っている状態。

参加者：高齢者と若者が交流を図れている状態。

参加者：若者だけではなく、高齢者以外の人であれば広く交流できると良いだろう。

参加者：高齢者が元気になれる場所、緑化の推進も含めて、安全で運動できる場所がある状態。

参加者：高齢者が区の実組を身近に感じることができており参画している状態。また、高齢者が困った時や、相談したい時に気軽に相談できる環境が伝わっている状態。

参加者：オフィスビル内に保育や高齢者の支援施設がある状態。認知症の人は夕方になると、落ち着きがなくなる傾向にあるので、そのような人たちの相手になってくれるような環境づくりが整っていると良いのではないかと。

## 5 取組の方向性について

リーダーが、取組の方向性について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：元気な高齢者には就労率を向上させる。

参加者：住み慣れた地域で生活を続ける。

参加者：ボランティアについて、無償だけではなく、有償ボランティアも導入してほしい。生活困窮者は助かる上に、身体を動かすことで健康にもなる。

参加者：老いや死についての教育を小中学生に対して授業で取り上げてあげる。

参加者：高齢者と高齢者以外がwin-winで参加する場所があるような取組が良い。例えば、幼稚園生に対して、高齢者が読み聞かせを行うなど。

参加者：高齢者理解を深めることで、高齢者と高齢者以外の人とのつながりが生まれてくるのではないかと。

参加者：共通の趣味を持つ人同士の交流を図れるような紹介してもらえる仕組み。

参加者：区から送られてくる書類が煩雑で見ないことが多い。書類の種類によっては、信頼できる人にしか見せたくないのと、そのような相談窓口の周知や相談者の養成をしていただきたい。

参加者：認知症サポーター養成講座で配布しているオレンジリングというものがある。このオレンジリングを持つ者は全国に1,000万人を超えていることから、このような人たちと連携してアルツハイマーに関する周知を図ってみたい。

参加者：区の事業を町内会単位で行うと良いものもあると考える。

## 6 その他

次回以降の開催日程は、10月23日とすることを確認した。第4回以降は各月第2週目、第4週目の水曜日、または金曜日にする事で合意を得た。欠席者に対して問い合わせを行い、出席率の高さなどを勘案して事務局が決定することとした。

(閉会)

事務局が第2回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年10月23日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 912会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係職員3名（保健福祉課長、介護保険課長、高齢者支援課長）、企画課グループ  
担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第2回グループ会議の振り返り
- 2 検討テーマ「高齢者支援の充実」に関する取組の方向性等について
- 3 具体的な事業について
- 4 参画と協働について
- 5 提言のまとめについて
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第2回グループ会議 会議録
3	第2回グループ会議の振り返り
4	提言の取りまとめイメージ

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第3回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

ファシリテーターが、資料1に基づき第3回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第2回グループ会議の振り返り

リーダーが、資料2～3に基づき、第2回グループ会議の振り返りを行った。

### 2 検討テーマ「高齢者支援の充実」に関する取組の方向性等について

ファシリテーターが、資料3に基づき、第2回グループ会議までの意見からまとめた提言(案)の説明を行った。リーダーが、提言(案)について意見交換を促した。

#### (主な意見等)

参加者：前回からの意見の流れとは異なるかもしれないが、日頃から自分の問題意識として公衆浴場の数が少なくなってきており、交流の場が無くなってきていると感じている。高齢者の安否確認も含めた良い場だったため、公衆浴場を盛り上げるように力を入れていただきたい。いきいきプラザにお風呂があるが、日中の短い時間帯のみ開いていると思うので、もう少し時間帯を長くしていただけないか。

参加者：提言(案)について、将来像の文言で気になるところがある。「つながりや役割を持ち」とあるが、前回までの意見を踏まえると、仕事やボランティアなどでの役割はなくても元気な高齢者が活躍できている状態になっていけば良いと思うので、少し文言を修正した方が良いのではないか。また、「環境づくりが整っている状態」とあるが、令和8年度末に環境づくりが整っている状態というのは遅い。環境が整っている状態ということなのか。

リーダー：ご意見は承知した。その他に意見が無ければ、具体的な事業について議論したい。

### 3 具体的な事業について

リーダーが、具体的な事業について意見交換を促した。

#### (主な意見等)

参加者：訪問診療・看護の拠点(家庭医クリニック等)を設置してはどうか。そういった拠点を明確に区民にわかりやすくすると良いのではないか。

それから、区役所や公的機関に区民を来させるのではなく、各町内会に出向いて活動してみてもどうか。例えば、年2回まで有効の専門家による体操教室など。

また、区の情報メール、SNSなどで送信する仕組みはできないか。例えば、「ファンクラブ」のような登録制にし、区民が高齢者関連や子育て関連の情報を希望して登録すると、該当者に案内を届けるような仕組みを考えていきたい。

参加者：防災訓練と遊び要素も兼ねた運動会のようなイベントとをコラボレーションしてみてもどうか。高齢者だけでなく、子どもの参加も見込めると考えている。

参加者：ちいばすのルートを変更していただきたい。終点をらくっちゃんにして、乗り換えせずにらくっちゃんにたどり着きたい。

公衆浴場の充実については、先程述べた通りである。

参加者：高齢者であっても孤独であることを良いと思う人もいる。人との交流が煩わしい人もいるので、必ずしも交流することを良いということでは済ませないでいただきたい。いきいきプラザや介護施設などでは、年寄りを子ども扱いしてることがあるが、もう少し高齢者を大人扱いしていただきたい。区のサービスはとても充実しているので、自分で情報を取りに行き、高齢者はもっと自立しなければならない。行政サービスに甘え過ぎである。

参加者：自分から前向きに情報を取りに行くことのできる人ばかりだと望ましいが、実際にはそのような人は多くない。

参加者：何でも人に頼ってしまうのは良くない。関与しないであげることも重要と思う。

参加者：高齢者と住民のつながりをつくる取組（つどえるカフェ「みかんの輪」）を提案したい。協力企業またはビル管理会社などを拠点として、オレンジリング保持者をスタッフに配置、介護施設に配車・送迎協力を求め、拠点となる場所で就労やボランティアを行えるような仕組みをつくる。民間企業、介護施設、オレンジリング保持者、高齢者などが一体的につながることでできる仕組みを検討していきたい。また、認知症終末期の知識啓発活動の一環で死生観を考える機会をつくることも重要と考える。

参加者：高齢者の自立を尊重する取組を行っている事例として、「夢のみずうみ村」を紹介したい。ここはデイサービスのような施設であるが、高齢者ではない人も含めて、1日の過ごし方を自ら決めることが特徴となっている。このように高齢者の自立を促す、尊重する仕組みを港区でも実践できないか。

参加者：認知症に理解のある人材をお店等に配置して環境をつくることも一つである。

リーダー：みなさんから出た意見をまとめさせていただきたい。

#### 4 参画と協働について

リーダーが、参画と協働について意見交換を促した。

##### （主な意見等）

参加者：区民（町内会）の要請に応じる際に、区は選択肢を提示し、区民に選んでもらうようにすることで、区民の自立を促すことができないか。

それから施設を検討するにあたっては、企画段階から区民が参画できると良いだろう。

参加者：「みんなとオレンジカフェ」でも実践されているように、つどえるカフェのお手伝いとして参加することができるだろう。

参加者：マンションの管理組合と連携して見守りに力を入れることが重要と考える。

また、町会の催しへ参加してもらうために、高齢者の孫を参加させるように周知していくと良いのではないか。

参加者：現金とは言わないが、協力した見返りとしてポイントなどをもらえると区民が積極的に参加してくれるのではないか。

また、高齢者の特技を生かせる場づくりも重要と考えている。支所の活動をみると、土日のイベント開催が多く職員が駆り出されている。職員はイベントの準備等ではなく、行政の仕事をしていただきたい。行政は会場だけ提供し、イベントの準備等は高齢者の活躍の場にできれば良いと思う。

参加者：協力店のマークをつくる際のシールを考案するのに区民のアイデアを募るなどで区民の参画を図れるのではないかな。

参加者：高齢者理解を深めることで、高齢者と高齢者以外の人とのつながりが生まれてくるのではないかな。

リーダー：みなさんから出た意見に基づき、提言のまとめを行いたい。

## 5 提言のまとめについて

ファシリテーターが、提言のまとめについて、本日は話合ったことはあまりまとめずにそのまま整理する旨、参加者に対して提案した。リーダーが参加者に対して提案に対する意見を募り了承を得た。

## 6 その他

第4回の開催日程は11月6日（水）、第5回の開催日程は11月22日（金）とすることを確認した。第6回以降は次回の会議で決めることで合意を得た。

### （閉会）

リーダーが第3回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月6日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所5階 512会議室

メンバー：3名（5名欠席）

事務局：対応部門関係職員2名（保健福祉課長、生活福祉調整課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第3回グループ会議の振り返り
- 2 検討テーマ「生活困窮者の支援」に関する現状と課題について
- 3 計画最終年度における将来像について
- 4 取組の方向性について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第4回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第3回グループ会議 会議録
3	第3回グループ会議の振り返り
4	「高齢者支援の充実」の提言（案）
（参考）	港区生活・就労支援センター ～生活困窮者自立支援事業～

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第4回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

ファシリテーターが、資料1に基づき第4回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第3回グループ会議の振り返り

リーダーが、資料2～3に基づき、第3回グループ会議の振り返りを行った。

ファシリテーターが、資料4に基づき「高齢者支援の充実」の提言(案)の説明を行い、事務局が、具体的な事業「訪問診療・看護の拠点(家庭医クリニック等)の設置」について、補足説明を行った。

#### (提言(案)の趣旨)

ファシリテーター：第2回、第3回の会議を踏まえ、「高齢者支援の充実」の提言(案)をまとめた。内容について過不足がないかどうか確認いただきたい。その上で、皆さんの合意を得て「高齢者支援の充実」の提言として取りまとめたい。

#### (補足説明の趣旨)

事務局：具体的な事業として「訪問診療・看護の拠点(家庭医クリニック等)の設置」についての意見があった。関連して区の状況を説明すると、すでに区内には訪問看護事業所が23か所、訪問診療や往診可能な医療機関が80か所程度あるという状況である。これらの存在を知らない、または誰に相談したら良いのかわからないという人のために、在宅療養相談窓口を2か所開設している。この窓口では、医療・介護等の関係機関からの情報集約を行っており、区民からの相談に応えられる体制を構築している。皆さんから出た意見の「拠点の設置」というのは、この相談窓口該当するのではないかと考えている。この相談窓口の周知・利用促進は進めていきたいが、「拠点の設置」という意味では実現できている取組と捉えている。

#### (主な意見等)

参加者：相談窓口が2か所とのことだが、区内全域を対象としているのか。

事務局：区内全域を対象としており、それぞれの相談窓口において、担当する地区別に紹介できる仕組みを構築している。

参加者：高輪地区高齢者相談センターとの連携も図れているのか。

事務局：連携を図っている。高輪地区高齢者相談センターでわからないことであっても、相談窓口に問い合わせ、受け取った情報を来訪者に提供するよう体制が整ってきているところである。

参加者：承知した。これまでの説明を聞くと、すでに拠点となる機能を持つ相談窓口が設置されていると思うので、提言の具体的な事業に記載しなくても良いと考える。

参加者：地域包括ケアシステムの一環と捉えて良いのか。

事務局：地域包括ケアシステムは、介護や医療、福祉、住まいなどの分野が連携し、地域での生活を支える体制のことを指しているため、相談窓口もこの体制の中の一つである。

リーダー：以上を踏まえると、「訪問診療・看護の拠点（家庭医クリニック等）の設置」はすでに行われている取組ということで、欠席している参加者も含め、提言から削除しても納得が得られるだろうと考える。ただ、地域包括ケアシステムのことを知っている人が少ないと思うので、そのような機関と区民をつなぐ取組を進めていくと良いのではないか。

事務局：確かにその通りであり、皆さんから意見としてある「各町会への出張教室・出前講座」が該当する取組にあたるので、このような事業を充実させていきたいと考えている。

ファシリテーター：これまでの参加者と事務局との意見交換により、「訪問診療・看護の拠点（家庭医クリニック等）の設置」を削除する。その他に過不足等が無ければ、提言として決定したいがいかがか。

参加者：（出席者全員承認）

ファシリテーター：それでは、「高齢者支援の充実」の提言を暫定版として取りまとめる。

## 2 検討テーマ「生活困窮者の支援」に関する現状と課題について

事務局が、参考資料に基づき、「生活困窮者の支援」に関する現状と課題について説明を行った。

リーダーが、現状と課題について意見交換を促した。

（主な意見等）

参加者：生活困窮者の自立支援に向けたきっかけづくり、または、職場環境が不十分ではないかと考えている。また、相談窓口に気軽に行きにくいことも課題だろう。

それから、ひきこもりが起因する生活困窮についても課題と考える。

参加者：買い物難民が増加している。物価の高いスーパーしかなく、日常生活の買い物がしにくい状況となっている。ちいバスのルートも改善していただきたい。

参加者：老々介護に直面している人や一人暮らしの認知症の人にとって、生活困窮の問題があるのではないか。

参加者：生活困窮者なのかどうかはそもそもわかりにくい点が課題と考えている。本当に困っている人なのかどうかは外見でわからない。

また、生活困窮についてはポジティブに受け止められないことが多く、ネガティブに受け止められることが一般的である。生活困窮の問題は自己責任ではないケースもある。地域の人たちのつながりにより、生活困窮に対する理解を深めることに寄与できないか。

リーダー：皆さんの意見をまとめると、「生活困窮者の支援」に関する課題は、「地域にオープンなつながりづくり（地域づくり）」、「買い物（交通手段含む）のしやすさ改善」、「ひきこもり対策（外出支援）」といったことがあげられる。

## 3 計画最終年度における将来像について

リーダーが、計画最終年度における将来像について意見交換を促した。

（主な意見等）

「地域にオープンなつながりづくり（地域づくり）」に関して

参加者：生活困窮者が「困った」と言える環境が整っている状態、気軽に声をかけ合えるまちが望ましいのではないか。

参加者：気軽に集まれて情報交換できるような場の設置が求められるのではないかな。

「買い物（交通手段含む）のしやすさ改善」に関して

参加者：買い物弱者のための交通手段の確保が必要と考える。

参加者：誰でも低額（無料）で利用できる交通手段の確保、どこへでも気軽に行くことのできる交通網の整備が必要ではないかな。

「ひきこもり対策（外出支援）」に関して

参加者：老々介護の人が相談しやすい窓口の設置も検討すると良いだろう。加えて、うつ病やひきこもり対策として精神科の精神病院も重要と考えている。

ファシリテーター：これまで出てきた意見をみると、計画最終年度における将来像というよりも、取組の方向性に近い内容となっている。今回出していただいた意見を取組の方向性とし、課題と取組の方向性を踏まえて、計画最終年度における将来像の検討を進めてみてはどうか。

参加者：（出席者全員承認）

ファシリテーター：それでは、計画最終年度における将来像についていかがかな。

リーダー：本日出していただいた皆さんの意見を踏まえると、キーワードとしては「医療・福祉・保健にアクセスしやすい（相談窓口）」、「生活しやすい（交通・買い物）」、「いつか私も、あなたも（お互い様、共生）」、「差別・偏見のない（地域づくり、共生）」などが将来像にあげられるだろう。これらをまとめると、「生活困窮者が買い物など生活しやすいまち」と「生活困窮者に対して差別や偏見がなくみんながともに暮らせるまち」を計画最終年度における将来像として取りまとめてはいかがかな。

参加者：（出席者全員承認）

#### 4 取組の方向性について

計画最終年度における将来像の議論で取組の方向性についての意見が出たため割愛。

#### 5 その他

第5回の開催日程は11月22日（金）、第6回と第7回の開催日程は12月の第2週目・第4週目の水曜日に開催することを暫定的に定めた。

（閉会）

リーダーが第4回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年11月22日（金）18時30分～20時30分

会場：港区役所2階 保健福祉支援部会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係職員2名（保健福祉課長、生活福祉調整課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第4回グループ会議の振り返り
- 2 検討テーマ「生活困窮者の支援」における具体的な事業について
- 3 参画と協働について
- 4 提言のまとめについて
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第5回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第4回グループ会議 会議録
3	第4回グループ会議の振り返り
4	「生活困窮者の支援」の提言（案）

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第5回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

ファシリテーターが、資料1に基づき第5回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第4回グループ会議の振り返り

リーダーが、資料2～3に基づき、第4回グループ会議の振り返りを行った。

事務局が、生活困窮者自立支援事業について、就労支援事業に関する補足説明を行った。

#### (補足説明の趣旨)

事務局：生活困窮者に生活保護受給者は含まれていない。生活困窮者に該当する人は、例えば親の年金で生活している子どもや、仕事を辞めて親を介護している人などがあげられる。就労支援事業は、若い世代のみならず、高齢世代も対象としている。港区は生活保護受給者数が減少傾向にあり、他区と比べても少ないことがわかっている。一方、生活困窮者は相談窓口等に訪れるケースが多くないことから、接点を持つことが課題となっている。

ファシリテーター：就労支援事業について、事務局からの補足説明により理解が深まったと思うので、前回の会議に関連する意見は出ていなかったが、就労支援に関することも含めて本日は議論を行うということではいかがか。

参加者：(出席者全員承認)

ファシリテーター：承知した。それでは、議題に戻っていただきたい。

### 2 検討テーマ「生活困窮者の支援」における具体的な事業について

リーダーが、「生活困窮者の支援」における具体的な事業について意見交換を促した。

#### (主な意見等)

参加者：生活困窮者の入居できる特養多床室を多く設けてはどうか。安くて入れる介護施設があれば、生活困窮者のためになるのではないか。

それから、区営住宅などに生活困窮者を住ませ、区営住宅自体に相談員を配置する、または共有スペースを設けて情報を得やすくする環境づくりを進めてみたらどうか。

参加者：介護予防のリーダーとなる人材の育成・活用・協力を推進した方が良いと考えている。自分が知っている民生委員をみると、意識の度合いにばらつきがある。名誉職として担っている人と、意欲的に活動している人との二極化が感じ取れる。民生委員やふれあい相談員の確保が重要と考えているが、民生委員を選定する時には意識の度合いについて配慮していただきたい。

ちいばすのルート変更も検討していただきたい。

参加者：区内にある大きな画面に、YouTubeなどで配信可能なPR動画を流して、生活困窮者の理解を促すメッセージを発信してはどうか。

行政は多くのつながりを持っていると思うので、そのつながりを活用して、個人から行政、住民につながるルートづくりを進めてみてはどうか。

就労支援については、就労アプリをつくって仕事をシェアしやすくするなど、マッチングの確率を高める仕組みを導入してはどうか。

参加者：お寺や教会と港区との共同事業、行きやすい場所や受け入れ態勢が整っている場所の活用が重要と考える。

また、人材確保の観点から、傾聴ボランティアなどのボランティアに対する有償化も検討できないか。

参加者：総合相談窓口の設置が必要だろう。ただでさえ、生活保護の窓口は行きにくいので、何でも相談できる場所が望ましい。一般的には、生活困窮状態を知られたくない人が多いのではないか。

### 3 参画と協働について

リーダーが、参画と協働について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：敬老の日の港区の行事でPR動画を流してみてもどうか。

社協と連携を深めて周知方法を検討することも重要だろう。

参加者：支援を受ける側、する側にポイントなどのインセンティブを付与し、支援の受け手と担い手の双方を活性化できるのではないか。

生活困窮者が立ち寄りやすいフリーマーケット、茶話会、相談所などを開催してみてもどうか。

韓国人における日本人のイメージを改善するために行われているフリーハグという運動がある。このような運動に参加してもらったり、PR動画に参加してもらったりすることで、生活困窮に対するネガティブなイメージを是正するとともに、区民の目に留まりやすくなり、関心喚起にもつながるのではないか。

参加者：PR動画の制作や区営住宅づくりに区民が参画することで、区民の意見を踏まえた効果的なものになるのではないか。

参加者：参画と協働について、日ごろから身近な人との関係づくりを築いておくことが重要である。日常生活の悩みを打ち明けられる状態が望ましい。

### 4 提言のまとめについて

ファシリテーターが、次回の会議までに、事務局と相談して提言のまとめ(案)を出す旨を説明した。

### 5 その他

第6回の開催日程は12月9日(月)、第7回は12月25日(水)とする。

(閉会)

リーダーが第5回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年12月9日（金）18時30分～20時30分

会場：港区役所2階 保健福祉支援部会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係職員2名（保健福祉課長、健康推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第5回グループ会議の振り返り
- 2 検討テーマ「健康の増進」に関する現状と課題について
- 3 取組の方向性について
- 4 計画最終年度における将来像について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第6回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第5回グループ会議 会議録
3	第5回グループ会議の振り返り
4	「生活困窮者の支援」の提言（案）
参考資料	「健康の増進」に関する現状と課題について

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第6回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

ファシリテーターが、資料1に基づき第6回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第5回グループ会議の振り返り

ファシリテーターが、資料2～3に基づき、第5回グループ会議の振り返りを行った。

また、資料4に基づき「生活困窮者の支援」の提言(案)の説明を行った。

### (主な意見等)

参加者：宗教という言葉を入れてしまうのは適切ではないと考える。日本は様々な宗派があることと、行政が宗教活動を斡旋しているように誤解されてしまう恐れがあるので、提言内容から外していただきたい。

参加者：前回、この内容について発言した。ただ、その趣旨としては、お寺や教会にこだわっているわけではなく、相談しやすい場所のイメージと連携すれば良いのではないかと考えて発言した。

参加者：例えば、民間企業や学校でも良いのではないかと。

ファシリテーター：「悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携して相談体制を構築する」ではどうか。

参加者：それであれば、関連した内容で「何でも相談できる総合相談窓口を設置する」という意見があるので、削除しても良いのではないかと。

参加者：私は残した方が良いと考えている。「生活困窮者の支援」のテーマで議論した際に、最大の気づきとなったことは、相談窓口などの考え方として、「生活困窮者向け」、「高齢者向け」などと区別せず、入口は誰もが訪れることのできるような体制が望ましいということであった。そのような趣旨にも通じる内容の意見が、「何でも相談できる総合相談窓口を設置する」ということで、「悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携して相談体制を構築する」ということとは異なるのではないかと。

ファシリテーター：それでは、「悩みを聞いてもらえるイメージのある施設などと連携して相談体制を構築する」と修正することとする。

参加者：(出席者全員承認)

### 2 検討テーマ「健康の増進」に関する現状と課題について

事務局が、参考資料に基づき、「健康の増進」に関する現状と課題について説明を行った。

リーダーが、「健康の増進」における現状と課題について意見交換を促した。

### (主な意見等)

参加者：がん治療後の対策、区としての取組が必要ではないかと。

障害のある人が働ける職場づくりも課題と感じている。

各種取組があると予想するが、その周知に力を入れた方が良いのではないかと。

参加者：健診の周知が十分ではないのではないかと。

参加者：歩きたばこ禁止の周知も十分ではないと考えている。

インフルエンザの予防接種の対象者を見直した方が良いだろう。高齢者の世代を対象にするよりも、子育て世代や次世代を担う子どもを重視して設定した方が良い。区は、なかなかそのような取組を実行しにくいと予想するが、高齢者である私がそのように考えているのだから、一つの意見として受け止めていただきたい。

健康診断の差別化を図るべきで、過剰に助成している仕組みもあるのではないかと。受けづらいものに対して支援した方が良いのではないかと。

高齢者支援の健康サービスも不十分であると感じている。

働いている人は企業で健診を受ける機会が設けられているが、専業主婦は自発的に受診しないとしないため、周知を強化した方が良いだろう。

参加者：がん検診率を高める取組や健診の大切さをアピールする活動も必要と考える。

障害を抱えていても元気が出るように、スポーツをする・みる機会を設けてみてはどうか。

参加者：働き盛り世代の人が病気になった時の支援はあるのか。特定の人に対する支援という意味ではなく、支援をしている企業を表彰するなどの仕組みなども重要ではないかと。

健診実績の把握を現実的なものにし、ターゲットを絞った課題の抽出が必要。

仲間とともに健康づくりを行うことも重要だろう。

リーダー：皆さんの意見をまとめると、「健康の増進」に関する課題は、「健診、がん検診、予防接種などの受けやすさ」、「病気になった後（療養後も含む）の支援」、「各種取組の周知」といったことがあげられる。

### 3 取組の方向性について

リーダーが、取組の方向性について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：「がん治療後や障害を持った人の理解を深めること」が重要ではないかと。

参加者：「専業主婦に対する健診」、「保育・幼児・学童教育施設での取組」など対象を絞った取組が必要と考える。

「健診項目の強化（特異健診中心）」についても取り組む必要があるだろう。

「健康維持の施設の充実、健康体操の実施策」も検討していただきたい。

参加者：健診に行きづらいのであれば、簡易健診のようなものを行ってみてはどうか。血液検査や身長・体重・血圧測定、肺活量程度の簡易なものを診査する取組である。

健康関連施設における人材の発掘・育成についても重要だろう。健康器具を使いたい時にスタッフがいて安心する。ただ、夜には不在のことが多い。

がんに関する施設のPRも必要である。

参加者：健康づくり活動において、ジムなどでのマンツーマン指導が重要と考える。加えて、栄養指導と仲間づくりを支援するような活動もできると良いのではないかと。

もしもの時の活動も重要である。終活という言葉が出てきているように、もしも大病を患ってしまった時はどうするのか、ということを考える機会を設けてはどうか。

今回のテーマであっても、分けをしないことを実現できないだろうか。先日、勉強会で関連施設を見学した時に、高齢者施設などが分けられてあった。そのように最初から分けてしまうのではなく、入口は誰もが共通したものとなっていて、訪れた人が自ら選択した施設を利用できる仕組みにならないか。

#### 4 計画最終年度における将来像について

終了時刻が近づいてきたため、ファシリテーターから次回の会議で議論すると説明があった。

#### 5 その他

第7回は12月25日（水）、第8回は1月16日（木）とする。

#### （閉会）

ファシリテーターが第6回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和元年12月25日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 912会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係職員2名（保健福祉課長、健康推進課長）、企画課グループ担当1名、サポートメンバー1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第6回グループ会議の振り返り
- 2 計画最終年度における将来像について
- 3 具体的な事業について
- 4 参画と協働について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第7回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第6回グループ会議 会議録
3	第6回グループ会議の振り返り
4	「健康の増進」の提言（案）

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第7回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

ファシリテーターが、資料1に基づき第7回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第6回グループ会議の振り返り

ファシリテーターが、資料2～3に基づき、第6回グループ会議の振り返りを行った。

また、資料4に基づき「健康の増進」の提言(案)の説明を行った。

### (主な意見等)

参加者：提言(案)における「実現に向けた課題」について、「ターゲットの明確化」という表現がみられるものの、前回の会議では具体的なターゲットとして専業主婦や子どもなどが意見としてあげられていたと思う。具体的に明記した方が、どの対象が課題なのかが伝わりやすいのではないかと考える。

参加者：前回の会議を受けて、現状の把握ができていないことがわかった。誰に対して対策を講じるのかがわからないまま議論を進めてしまって良いのか。できればターゲットを絞り込めると対策も検討しやすいと考えている。

ファシリテーター：確かにこれまでのテーマでは、高齢者、生活困窮者と対象がわかりやすかった。「健康の増進」というテーマにおいては、健康寿命の延伸が最大の目的となっており、現時点で健康でない人、健康である人は関係なく、また、性別や年代も関係なく、幅広い人に対して必要な施策となっているため、対象を絞り込まずに議論を進めて良いと考えている。

事務局：担当課としても、その考え方で進めて良いと考えている。

ファシリテーター：それでは、提言(案)の内容について、「ターゲット(専業主婦や子ども)の明確化」と修正することとする。

参加者：(出席者全員承認)

### 2 計画最終年度における将来像について

リーダーが、「健康の増進」における計画最終年度における将来像について意見交換を促した。

### (主な意見等)

参加者：港区の取り組みが区民に周知できていることと、子どもからお年寄りまでが各地区の公園や施設、歩道で歩き、走り、遊んでいること、栄養について勉強する場があり、各人の健康に合わせた食生活を送っていることが実現できている状態と考える。

参加者：医療機関の連携が図れており、在宅でも遠隔で診療してもらえる状態が実現できるなど、自分の医療情報がどこに行ってもわかる状態と考える。また、予防健診が充実していることも重要で、健診を受けた後に追跡できる仕組みやかかりつけ医の充実、情報の集約化が図れている状態が理想と考える。

参加者：医者レベルが標準化されている状態と考える。

参加者：療養中、療養後に自分のまちで暮らせる、仕事ができたり、学校に通えたりできる状態

と考える。また、自分が受けたい健診をいつでも、どこでも自由に受けられる環境が整っている状態と考える。

参加者：健康に関するデータを取得できている状態、健康意識を持つ人がその意識を継続でき、リーダーとなる人材が活躍している状態、サークル活動が活発になっている状態と考える。

リーダー：皆さんの意見をまとめると、「健康の増進」における計画最終年度における将来像は、「医療・健康・情報のデータ化・共有」、「サークル活動、リーダー育成、世代交流、次世代育成・継承」、「地域づくり、イベント」といったキーワードがあげられる。

### 3 具体的な事業について

リーダーが、具体的な事業について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：健診や感染症・介護予防についての周知・啓発に際して動画を作成して配信すること、健康関連施設及び設備の充実、人材育成の強化を図ることが重要ではないか。

参加者：自らの医療・健康情報を医療側と個人（家族）のみで共有されるシステム作りが重要だろう。

参加者：魅力あるイベントで健康相談コーナーや測定コーナーなどを設置し、健康づくりの機会を設けてあげると良いのではないか。

参加者：健診を受けることのできる場所は限られている。企業が自社で健診を受ける環境を提供しているように、地域に健診できる環境が出向く仕組みを構築したらどうか。

参加者：子育て世代や子どもを対象に、幼稚園、小学校、中学校などで予防接種の集団実施を行うと良いだろう。

参加者：子どもと高齢者の接点をつくるために世代交流の場を常設する。また、「〇〇のための施設」といった対象別に施設を分けるのではなく、だれもが一緒に集まる場所をつくると良いのではないか。学童の横に高齢者のサークル活動の場所があれば、交流の機会につながるのではないか。

### 4 参画と協働について

リーダーが、参画と協働について意見交換を促した。

(主な意見等)

参加者：献身的なボランティアの養成が必要だろう。地域の団体を見ると、役職をつくることでリーダーの影響力が高くなってしまい、上手くまとまらないケースが多い。そうすると団体に対して嫌気がさしてしまい、参加しなくなってしまう。世話人のような立場となって協力しあえることが重要だろう。

参加者：情報共有のシステムづくりに区民が参加できるようにする。業者に一任でつくらせてしまうと、区民の意見が反映されない可能性がある。区民の意見を反映できる仕組みにしていきたい。それから次回の地域福祉フォーラムに区民が参加して盛り上げることもできるだろう。

参加者：移動健診車が近隣に来た時に、近隣住民がボランティアで応援する。また、お年寄りの移動のつきそいをするなどで協力できる。

お年寄り、中年、子どもの交流イベントを定期的実施（年に3回程度）し、区民にボランティアとしてお手伝いしてもらおう。

参加者：事業の企画・実施にあたって、子どもから高齢者が参画できる仕組みをつくる。

健康増進の主な企画・実施を中学生にお願いするものを年に1回イベント的に開催できるようにする。

健診等データの整備委員会を区が主導で立ちあげ、区民の委員を募る。

区内の健康参画における地区順位をつけてポイントを付与することもできるのではないかな。

リーダー：今回出た意見を踏まえて、事務局で提言としてまとめていただくということによろしいかな。

ファシリテーター：承知した。次回は3つのテーマの提言（案）を示し、文言の加除修正や発表する内容を取り決めることとする。

## 5 その他

第8回は令和3年1月16日（木）とする。

### （閉会）

ファシリテーターが第7回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム  
福祉・保健グループ（第9グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和2年1月16日（木）18時30分～20時30分

会場：港区役所9階 915会議室

メンバー：5名（3名欠席）

事務局：対応部門関係職員4名（保健福祉課長、高齢者支援課長、介護保険課長、生活福祉調整課長）、企画課グループ担当1名、委託事業者1名

■次第

（開会）

- 1 第7回グループ会議の振り返り
- 2 検討テーマ「健康の増進」に関する提言（案）について
- 3 検討テーマ「高齢者支援の充実」に関する提言（案）について
- 4 検討テーマ「生活困窮者の支援」に関する提言（案）について
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第8回グループ会議の目的とタイムスケジュール
2	第7回グループ会議 会議録
3	第7回グループ会議の振り返り
4	検討テーマ「健康の増進」の提言（案）
5	検討テーマ「高齢者支援の充実」の提言（案）
6	検討テーマ「生活困窮者の支援」の提言（案）

## ■会議要旨

### (開会)

事務局が、第8回グループ会議開催にあたっての挨拶及び開会宣言を行った。

ファシリテーターが、資料1に基づき第8回グループ会議の目的とタイムスケジュールの説明を行った。

### 1 第8回グループ会議の振り返り

ファシリテーターが、資料2～3に基づき、第7回グループ会議の振り返りを行った。また、第1「まちづくり」グループから出された福祉・保健分野に関する提案事業について報告した。

### 2 検討テーマ「健康の増進」に関する提言(案)について

ファシリテーターが、資料4に基づき「健康の増進」の提言(案)の説明を行った。

#### (主な意見等)

参加者：具体的な事業について、「子どもから高齢者まで、誰もが一緒に交流する場の設置」のままだと、「健康の増進」というテーマのみならず、どこでも当てはまる事業となりそうである。「交流して元気になる」、「いきいきするために交流する」などの表現を加えた方が良いのではないか。

参加者：子どもから高齢者までという表現に含まれるかもしれないが、世代間交流というキーワードも前回の会議で出ていた。

参加者：参画と協働について、「特に、子どもにも参画してもらおう」とあるが、ここは子どもが先生になるような意味合いが入ると良いだろう。子どもが企画立案・実施する言葉でまとめられないか。

参加者：確か前回の会議では中学生としていたが、高校生や大学生でも良いはずである。若い人がというような表現でも良いだろう。

ファシリテーター：それでは、具体的な事業については、「子どもから高齢者までがいきいきと元気に暮らせるように、誰もが一緒に集う世代間交流の場の設置」に変更し、参画と協働については、「また、若い人が中心に企画立案・実施を行う。」に変更するというところでよろしいか。

参加者：(出席者全員承認)

### 3 検討テーマ「高齢者支援の充実」に関する提言(案)について

ファシリテーターが、資料5に基づき「高齢者支援の充実」の提言(案)の説明を行った。また、事務局(保健福祉課長)より、具体的な事業の「訪問診療・看護の拠点(家庭医クリニック等)の設置」について補足説明を行った。説明の趣旨としては、既存の取組である事業のため、削除しても良いかどうか確認を促すものであった。

#### (主な意見等)

参加者：具体的な事業の「公衆浴場の活用と振興推進」について、「公衆浴場の活用と設置」にしたい。新たな設置を希望して意見を出した。

参加者：銭湯は設置しても利用者が少ないのではないか。利用者が少ないから廃業に追い込まれ

る銭湯が出てくるのではないか。

参加者：以前、廃業に追い込まれた銭湯は後継者がいないために至ってしまった。利用希望者はいるので、行政から支援していただきたかった。また、いきいきプラザにはお風呂が設置されているところがあるが、時間帯が短いため、延長していただきたいという声もある。

参加者：何か高齢者にとってプラスになるのであれば銭湯を設置して良いと考えるが、単に設置するというのは賛成できない。

参加者：銭湯を利用する人は、お風呂が家がないから来ている人と、交流するために来ている人と2種類存在する。

参加者：高齢者が一人暮らしで危ないからという理由や、憩いの場として活用するためという理由であれば、高齢者のためにプラスになるので「設置」という表現を加えて良いと思うが、元気な高齢者が入るためのお風呂の設置に税金を使う必要はないと考える。

参加者：具体的な事業の「高齢者福祉施設への行きやすさの向上」について、「利便性の向上」の方が適しているのではないか。

ファシリテーター：それでは、具体的な事業については、「訪問診療・看護の拠点（家庭医クリニック等）の設置」を削除、「高齢者福祉施設への利便性の向上」に変更、「高齢者の交流の場となるように、公衆浴場の設置及び活用と利用しやすい環境づくりの推進」に変更するというところでよろしいか。

参加者：（出席者全員承認）

#### 4 検討テーマ「生活困窮者の支援」に関する提言（案）について

ファシリテーターが、資料6に基づき「生活困窮者の支援」の提言（案）の説明を行った。

参加者：具体的な事業の「生活困窮者も入居できる特養多床室の設置」について、「特養」という言葉は不要ではないのか。もしそのまま残すのであれば、「介護が必要な生活困窮者も」と変更するべきである。

ファシリテーター：それでは、具体的な事業については、「介護が必要な生活困窮者も入居できる特養多床室の設置」に変更するというところでよろしいか。

参加者：（出席者全員承認）

#### 5 その他

ファシリテーターが、提言に向けた今後の進め方について説明を行った。

（閉会）

ファシリテーターが第8回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上